

集解懸巢大似鳩頭白有黑斑、眼邊及頰有黑紋、頰上至背腹翻上灰赤色、翻端白有青斑、羽黑白相分、白處有青斑、啄尾黑脛黃、鳴聲極喧、能成諸鳥之聲、性躁惡擊、小鳥而食、其類相值則搏鬪、或畜之樊中、成百鳥之聲、然不能與餘鳥同居、若同居必爲害、每養之不以魚鳥之肉則死焉、其味極臊腥、不可食、故不詳氣味之性也、

〔和漢三才圖會林禽十三〕檀鳥 好棲檀樹、故俗呼曰檀鳥、又名懸巢鳥、

按檀鳥形小於鳩、略 中 今商家除夜元旦炙食、以祝借而取之義矣、肉味不美、有臊腥氣、

〔喚子鳥下〕かし鳥 ふがひ 生五分、あなみ入、 粉壹匁、

大きさはひよ鳥に大きく鳩のごとし、かしらねすみ色にごまふあり、總身こいねすみいろ、尾羽のはしくろく、羽のもとにるりいろの羽あり、此とり子がひによくものまねをさへづる、

鳥かし鳥 ふがひ 生五分、あなみ入、 粉壹匁、

大きさは鳩に大ぶり、いたゞきくろく、總身ねすみにくろきごまふ有、さへづりからすにたり、は

しつよく木つ、きのごとくかごをやぶる、近國にはまれなり、

〔食物和歌本草二〕鷺 カシノ

鷺は平にて甘く膈に吉食を消しつ、氣を下す也、鷺は疵や瘡にはふかく毒氣力をぞ益常に

食せよ、鷺を串指あぶり用れば、盗汗をとめ諸薬にもます

〔永久四年百首冬〕椎柴 俊頼

夏そひくうながみ山のしるしばにかし鳥なきつ夕あさりして

〔武江産物志〕山鳥類 かけす上野

〔本朝食鑑六〕林禽 椋鳥 調武久

釋名 此鳥常棲椋 木故名之

椋鳥